

## 事業報告書（平成 30 年度）

事業名 講演会「日本でいちばん大切にしたい会社が行っている障害者雇用」とキットパスを使って窓ガラスに絵を描くワークショップ

団体名 よつばの会 担当者名 森石 雅子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

（8月を予定していたが、水害後、暴風警報が出たため、申込者に全員連絡をし、延期）

日時：平成 30 年 12 月 9 日（日）、13 時～14 時 ①ワークショップ、14 時半～16 時半

②講演会を、岡山市立中央図書館 2 階視聴覚室で開催しました。

一般市民の親子参加 58 人、講演会参加 41 人、当会会員各 10 人。

①ワークショップは、インストラクターである講師の佐藤先生から、kitpas の安全性、使い方、手に付いた時の取り方など、説明を受けた後、「らくがき文化を広めよう」という趣旨で、ガラス一面に大人も子どもも一緒に絵を描きました。小さいお子さんには、準備した厚紙に手形を取って色止めをし、お土産として袋に入れました。CD ケース、アクリル板、ガラス瓶など、準備した資材にも絵を描き、全員が楽しく思い思いで過ごせました。終わった後、写真を撮る方も多く、楽しかったという感想も多かったです。障害のあるお子さんや当事者の方の参加もあり、みんなで交流する機会になりました。



②講演会は、ワークショップとは違った立場の方が参加されました。レジュメ以外に、現場で働いている方の映像や工場の内部映像が幾つもあり、現地に行って見学しているような感じで、動画を見ることができました。特に会話の部分や、働いている様子は、皆さん、注目してご覧になっていました。

講師の佐藤先生は、元人事部ということもあり、障害のある方の職場でのエピソードや会社のルール、お給料やお休み、余暇や日々の小さな変化について細かく伝えて下さり、日本でいちばん大切にしたい会社と呼ばれる企業の障害者雇用の姿勢を学ぶことができました。

質疑応答にも真摯に答えて下さり、障害のある方もない方も、同じ社員として協力し合い、良い商品を作り、ここまで積み重ねてこられたのだということ、会場の誰もが実感したのではないかと思います。「頼りになる同僚」という言葉が印象的でした。

企業の方、中小企業同友会、支援機関、行政機関、医療、福祉、教育、家族、当事者、様々な立場の方が参加して下さいましたことに感謝しました。



今回、延期になった事と、当日別の大きなイベントがあったことで、参加が少ないのではと思いましたが、「楽しみにしていたので、調整して参加したい」という方が多く、最初に申し込みあった方が多くご参加くださいました。セミナーに参加できなかったけれど、また企画してほしいという声や、加古川市から来られた方が、自分の地元でも、と、講演会の開催が決まったと聞き、正しい理解や住みやすい社会づくりの一助となる、情報発信ができたようです。ありがとうございました。

## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

### ESDの視点を取り入れたところ

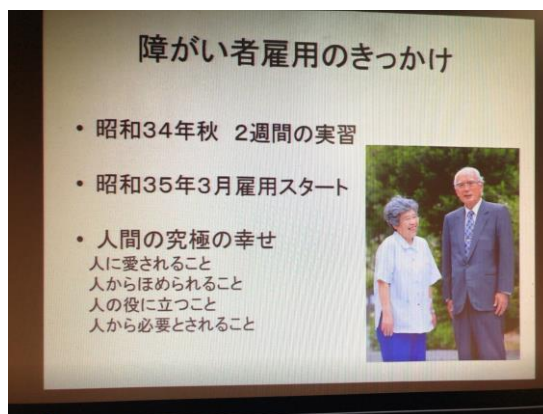
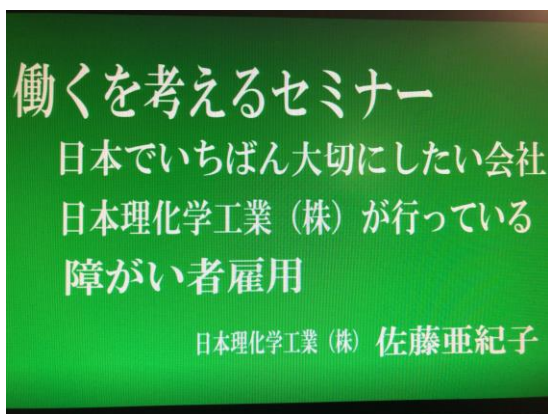
・当会の活動上、障害者福祉や雇用に目がいきますが、日ごろ縁がない一般市民の方に多く参加していただけたらと、ワークショップを企画しました。また、会場を図書館の一室にすることで、親子連れの方が多く参加されました。一緒に楽しむお母さんや、赤ちゃんと座ってゆっくり休んでいるお母さんもおられ、安心して参加できる内容だったのではないかと思います。障害のある方が携わっている商品が世界中で使われていることも、知っていただけました。最初に環境に配慮した安全な商品であること、扱い方を説明した後は、お子さんの自主的な楽しみ方を見守り、マナーや順番を守り、kitpasをシェアしながら楽しく活動ができました。大人の当事者の方も何人か参加されていましたし、発達障害のお子さんも参加されましたが、難しいことは考えず、誰もが楽しめるワークショップができたのではないかと思います。

講演会では、障害のある人もない人も一緒になって、やりがいを感じて働き、毎日必要とされる中で頑張る姿は、まさにインクルージョンの社会でした。一朝一夕でできるものではなく、長い期間の中で、継続したからこそ働き続けられているのだと、知ることができました。中でも今回の為に撮影して下さった映像を使っただけの講演は、まるで会社に研修に行っているかのようなようでした。参加された方にとっても、貴重な機会となりました。

安心して暮らせること、それは生活だけでなく、働くことも含みます。

初めて雇用した時の社長さんのエピソードや、その後、たくさんの障害者の方を雇用されるまでに至った経緯や考え方は、まさに持続可能な社会づくりでした。

地道な積み重ねが理解者や支援者を増やし、地域の中で当たり前前に企業として商品開発やさらなる雇用を生み出しています。



### ESDの視点で見直したところ

当初ワークショップは、ジャンプ傘に絵を描く企画でした。しかし、大きな窓ガラス自由に描く内容に変えました。物で残すのではなく、何度でも消してまた描けるという kitpas 本来のらくがき文化を楽しむことができました。また、資材をセットとして渡すのではなく、自分の好きな物を使って楽しむ、自由度の高い内容となりました。障害のある方も含んで

の、知らない大人や親子が同じテーブルや窓ガラスで絵を描き、会話がはずんだり、一緒に見守りしている場面が見られ、出会いや繋がりが増えてよかったです。今回、共催していただいた中央図書館と、岡輝公民館の職員さんと何度か打ち合わせをし、ESDの観点を考えながら、内容決定でした。意見を出し合いながら良いイベントが開催できてよかったです。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

下記の感想にあるように、ワークショップは参加された方が、楽しめたようで良かったです。ストレスを発散して、子育てに頑張るためにも気分転換が大切です。また幼児であっても子ども自身が楽しくワークショップに参加している姿を見ることができました。

会場内にはスタッフもいましたので、安心して参加できたのではと思います。

セミナーは、障害のある方がまじめに黙々と働いている様子を見ることができました。

あの会社だからできたんだ。というお声も頂戴しますが、まずは一人からの雇用であったり、手探りからのスタートで失敗もあったという話は、あの企業だから…という意識を変えてくれました。誰にとっても自分の障害特性と合うところで、自分のもてる力で「働く」ことが、幸せだと思えるお話でした。

障害のある人を変えるのではなく、障害のある人がわかる形に仕事のやり方を変える、というところは、皆さん納得されていました。時間が足りないくらいでしたが、質問であり、無事に開催でき良かったです。

#### 【参加者の感想】

★ワークショップ 参加人数：58人

感想など：

- ・楽しかったです！…子ども達の感想多数
- ・生き生きと描く子ども達、父兄の姿に感動した。
- ・子供がワクワクする事、私も子供の時にしてみたかった。キットパスなら、怒らずに家でも窓に書かせてあげたいです。
- ・普段窓に絵を描く事が出来ないの、楽しかったです。家でもやってみたいと思いました。
- ・窓にかいても発色がきれいで伸びもよかったです。子どもも楽しめたと思います。
- ・子供がすごく喜んでいました。
- ・キットパスがとても書きやすい、描きやすい物と認識できました。
- ・これを使って、友達の子どもやボランティア先の子ども達と遊んだらとても喜ぶだろうなと思いました。
- ・遊びだけでなく、職場でも使えると思いました。
- ・子どもが強く押し付けるのが難しいので色を塗りつぶすのに苦労しましたが、慣れると

うまくいきました。

- ・簡単に手形が取れたり、変化を楽しめるので、幅が広がると思います。
- ・書き心地もクレヨンと変わらず使いやすく、水で落ちるので扱いやすい。
- ・購入したので家に帰って娘と窓に書いてみたいと思います。お風呂用も気になります。
- ・とても面白く、子どもの世界が広げられると思いました。
- ・描きやすく、服についてもウェットティッシュですぐ取れてよかったです。

★セミナー 参加者：41人

感想など：

- ・「皆働社会の実現」という言葉がとても心に残りました。もっと大きく広く社会に広がってほしいと思います。
- ・利益を出しながら雇用の継続をされているので、すごいと思いました。障害者の特性を理解しつつ、1従業員として育成していく社会の姿勢や取り組みはとても参考になりました。
- ・障害のある人にも分かりやすいように工夫されているところがやはり大事なのだと思いました。ダメな事を伝える時に具体的になど参考になりました。
- ・雇用の5つの約束など具体的に働くまでにどのような力が必要かがわかりました。一生懸命仕事をするという姿が理化学工業のスタートであったという話はすごいことだと思いました。
- ・動画を交えながら、真剣に自信をもって働く姿が伝わってきて、素晴らしい会社だと改めて思いました。
- ・大山泰弘会長のお話を以前聞き、また著書の「利他のすすめ」にすごく感動して聞きに来ました。とてもよかったです。
- ・日本でいちばん大切にしたい会社というだけに、とても参考になるお話でした。すごすぎてこの会社は特別なんだと思うほどでした。講師の佐藤さんが面接の時の雰囲気良くってというのは、やはり大山会長の温かい気持ちが会社全体に伝わっているんだと思います。
- ・人に愛されること、人から褒められること、人の役に立つこと、人から必要とされることは、一般企業での定着にも繋がる事であると感じました。
- ・具体的な仕事の内容や職場の様子を聞かせてもらったので、障害のある方の働くということについて深く考えることが出来ました。「いつもと違うサインをとらえ、その時に放っておかず声かける。話をする。」ということが印象に残りました。
- ・人の幸せの視点を具体化されている点、いっしょに働くことのすばらしさに嬉しくなりました。
- ・一人一人がVTRのようにスムーズに仕事をされるまでに、会社としての工夫や取り組みなどを質疑応答の時間に伺うことが出来ました。誰にとっても「働く」と言う事の生きる上での意味を改めて考えるきっかけを頂きました。
- ・みんなが働ける社会になったらいいなと思います。障害の有無にかかわらず、いろんな

理由で働けない場合があるので、全ての働く意思のある人が働く場を得られたら一と思います。

・日本理化学工業のような会社が社会全体に広がってほしいと切に願います。素晴らしい会社だし、理念や長く続けていることなど、岡山にもできてほしいと感じました。

・本当に素晴らしい会社でした。最後の「みんな仲間である」ということが大変印象に残りました。

・障害のある人の”障害を取り除いてあげたい”という気持ちと、本人が働きたい！という気持ちがあればこそだとわかりました。ありがとうございました。(親の協力…大きいですね)

#### 4. 今後の課題と展望

今回は、よつばの会と仕事体験活動を広く知ってもらうこと、日本理化学工業㈱の障害者雇用について知ってもらうこと、楽しく集うイベントを行うこと、が目的で開催しました。当会はこれまで、人との出会いやつながりから活動を広げてきました。仕組みづくりも試行錯誤しながら続けています。

仕事体験活動だけでなく農業体験やバス研修、公民館祭りでのバザーなどを行っていますが、活動を知らないという方が殆どです。人と人が出会いつながることを目的にしているので、どうやって活動を広く市民の方に知ってもらえるか、考えた結果が今回のワークショップと講演会でした。

仕事体験活動は色々な経験をすることが減っている現代の子どもたちにとっては有効な活動です。褒められることや必要とされることが少ない、障害のある子どもにとっては、貴重な機会となります。誰もが必要とされ働き続けられる社会を目指して活動をしている当会としては、活動を知ってもらえる機会を一つでも多く得て、口コミや情報発信を行い、必要とされているお子さんや保護者、人の役に立てる場を探している方に、つながっていただけると考えます。小さい年令から活動が出来ればと思いますが、体験場への送り迎えや、サポートをして下さる支援者との連絡などマンパワーが必要ですので、福祉サービスで満足している家庭が多いのではと思います。まず会のことを知ってもらい、活動をしたい親子や支援を考える方に繋がりを広げたいです。

将来的にこの活動は一部の団体や市民が行うのではなく、社会の中で、地域の必要な仕組みとして取り組んでもらえるように方向付けられれば何よりです。

持続可能な社会づくりに大いに関係している活動と自負します。